浜手バイパス被災構造物展示モニュメントの概要

浜手バイパスは、国道2号の渋滞緩和、ポートアイランドとの連絡のため、1986年に開通した高架道路で、1995年の阪神淡路大震災で大きな被害を受け、72基ある橋脚のうち58基が壊れ、橋桁も最大で3.5メートル横ずれしました。

復旧工事が終わって通行再開できたのは、被災後1年3ヶ月以上たった1996年5月2日でした。

被災の姿を後世に残すことで、防災意識を高めるため、地震によって破壊された浜手バイパスの橋脚、伸縮装置、支承（道路を支える部分）をこの場所に展示しています。

被災した橋梁復旧の地震に対する設計の基本方針

① 崩れ落ちた橋脚の対策として、柔軟性・ねばりの向上

② かみ合っていた伸縮装置の歪の対策として、地震の揺れを少なくするために、橋げたを軽くし、橋げたが移 動して落ちないように、二重の落橋防止装置や橋げたを連続化して伸縮装置を省略

③ 破損した支承の対策として、揺れを吸収するゴム支承を採用